



東日本大震災が発生し現地で被害に会われたKさんがよっちゃん家に来所してから3年以上は経つだろうか。仮設住宅の生活で体調を崩して、東京に住んでいる息子さんのところに身を寄せた。通院先の先生の紹介で来所が始まり、いろいろなイベントに積極的に参加しみるみるお元気になっていった。よく私が聞く言葉は(私が元気になった源はこのよっちゃん家のおかげです) うれしいお言葉です。最近スタッフとも顔なじみになりぼったりぼつりと大震災の恐怖を話し始めています。その話の経験談本人より聞いたスタッフは感動していました。NaNaの会の中高生のおしゃべり場を開催した折に「語り部」として招き体験談を話していただいたらきっと学生たちは感動をするでしょう。そのことがきっかけとなり又、新たな人との繋がりができるかもし知れないと思ひ是非、実現をしてみたいと思っております。

ボランティア・低引

「よっちゃん家」発足以来、月に2回程度ですがお手伝いさせていただいています。地方出身の私は、結婚を機に江東区民となり45年になりますが、典型的なサラリーマンで働き蜂として家と会社の往復に明け暮れ、地域の方々との交流は全くありませんでした。「よっちゃん家」は、まさに私自身の「多世代交流の里」として、地元の先輩方や若いお母さん方との交流を楽しませていただいております。

運営委員・磯野

砂町よっちゃん家開設4年、平成26年より吉野委員長の呼びかけで開設準備、当時私は民生委員として活動しており、十分な支援ができるか、又地域の民生児童委員の方々も活動の中では重荷に感じるのではと心配もありましたが、地域の方の応援とボランティアの方の協力や長寿応援課・社会福祉協議会の支援により始めた砂町よっちゃん家。活動も年々利用者も増加、また自主活動団体も活発になりました。ですが、今回のコロナウイルス感染拡大により自粛要請で高齢者を含め多くの方が外出を控え活動も停滞しております。もう少し収束まで新しい企画も模索しながら頑張ります。

運営委員・大野

よっちゃん家のスタッフとして4年、思ったようなお手伝いが出来ませんでしたがお年寄りから赤ちゃんまで憩いの場として出来ることを企画し皆様と楽しみながら参加させていただきました。また今回はコロナのため活動が寂しい時もありましたが、再開でき元気な姿に会う事が出来安心しました、しかし残念ながら、まだ心配で多数の人と会うのに怖く家に居ると…。早く皆が安心して、お茶飲み会やおしゃべりに多くの方が足を運び来てくれる事を待って、楽しい1日が過ごせる事を願ってます。

運営委員・杉浦

新しい生活(日常)をよく耳にします、ハテ何の事とおもいましたが、三密を避ける、消毒・マスク着用、不要な外出を自粛、リモート・テレワーク・地方移住やオンラインこれらが「新しい生活」なのですね。地球規模の災難は今後も現われると思ひますあらゆる分野での活動自粛はリーマンショック以上の経済損失といわれ倒産失業者が増えるそうです。

この様な社会であっても救いは子供たちの元気と笑顔、学校の再開は大切であり友達と会えることの嬉しさを忘れる事はないでしょう、この災難を乗り越り知恵を出し合い困難な今こそ支え合い助け合う時ではないでしょうか、福祉活動って継続する事しかない。

あんなことやこんなこと



自主活動団体「寺子屋みなてらす」子供たちとコミュニケーション・学力UP・生徒募集中



江東区コミュニティ活動支援サイト



よっちゃん家
← こちらから